

毎日新聞 10/27(木)号で掲載されました。

江戸後期 相模国磯部村の草双紙戯作者

江戸時代後期に相模国磯部村(相模原市南区磯部)に住んだ草双紙の戯作者、仙客亭柏琳(本名・荒井金次郎)が著した「花吹雪縁柵」など3作を現代文に訳した「仙客亭柏琳 翻刻全」が発刊された。柏琳から5代目に当たる日相印刷(同区麻溝台)の荒井徹会長(77)、荒井功社長(75)の兄弟が「柏琳の頭彰と先祖の慰霊に」と刊行した。

【高橋和夫】

5代目 荒井徹、功さん兄弟



発刊した翻刻全集を手に「供養ができた」と喜ぶ荒井徹さん(左)と弟の荒井功さん

3作品収録「頭彰と先祖の慰霊に」

柏琳は磯部村の旧家。年1月に71歳で死去に生まれた。菩提寺のたどある。神奈川県史、相模原市史などでは

「草双紙農民戯作者」と紹介されている。草亭種彦が校閲を含めた双紙は浮世絵師のさし監修を手掛けた。

人気の戯作者だった柳修の各大学が所蔵する原本の画像データや複写を借りて制作。ひらがな文に漢字とカタカナがわずかに交じり、句読点もなく読みにくい原文を、専門家の協力を得て翻刻した。文章の内容が理解できるように現代の漢字・かな交じりに変換して句読点や改行、ふりがなをつけて編集した。

荒井会長は「磯部の大きな長持ちの中に文章を書いた和紙がた

絵入り娯楽本で、美人画などの作品を主にした木版刷りの和と日本として出版された。

原本が残存し、国会図書館などに所蔵されているのは、江戸・天保年間の1830年代に刊行の「花吹雪縁柵」(天保3年)▽「星下梅花咲」(同5年)▽「紫房紋の文箱」(同7年)の3作だけ。3作とも当時、江戸で大

「花吹雪縁柵」は、表紙を浮世絵の第一人者だった葛飾北斎、さし絵を武者絵で名を上げた歌川国芳が描いた。「星下梅花咲」と「紫房紋の文箱」の表紙、さし絵は横濱開港時の横濱絵、開化絵で知られる歌川貞秀が絵筆を振るった。

翻刻全集(B5変型判、352頁)は、3作とも原本そのものと原文、翻刻文、現代文を掲載した。作品では鎌倉や京都など各地域や往時の庶民の食、人情なども書き込まれている。巻末には北斎、国芳、貞秀の多色刷り木版原画計9点も収録。北斎は、磯部名産と柏琳をしのんだ。

仙客亭柏琳

翻刻全集を刊行

植物のカザグルマを題材に描いた。

荒井会長は「慰霊とあわせて、文化的な財産を残したい」と2年前、早稲田、慶応、専修の各大学が所蔵する原本の画像データや複写を借りて制作。ひらがな文に漢字とカタカナがわずかに交じり、句読点もなく読みにくい原文を、専門家の協力を得て翻刻した。文章の内容が理解できるように現代の漢字・かな交じりに変換して句読点や改行、ふりがなをつけて編集した。

仙客亭柏琳 翻刻全集



「花吹雪縁柵」で葛飾北斎が描いた相模川のアユとカザグルマ

年3月8日 第3種郵便物認可 創刊日新報社1916(日刊)



10月27日(木) 2016年(平成28年)

発行所: 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 千100-8051 電話(03)3212-0321 毎日新聞東京本社

SAVOY

袋型保温本袋

サボイ(後援)

03-6721-0797

NEWSLINE

生まれ変わる銀座 7



東京・銀座の松坂屋跡地に複合ビルがオープンする。脱百貨店を掲げ、訪日外国人需要の取り込みを図る。

阿蘇噴火 今後の動きは 12

36年ぶりの大噴火をした阿蘇山。今後、活動が活発化するのか沈静化するのか? 熊本地震との関係は?

図書館安らぎ求め 13~15-28

本の紹介より安心できる場所を。学校図書館に安らぎを求める子ども